

# 大正

1912—1925

町に電燈がつき、志津川郵便局では電話業務を開始、志津川・石巻間には汽船が走り、柳津・登米間にはバスが開通するなど、大正デモクラシーという民主主義的風潮とともに、志津川町も生活インフラ（基盤）の整備が飛躍的に進んだ時代だった。大正9年（1920）の世帯数は、1,149戸、人口は6,488人だった。

## 近代化、着々と。町に初めて電燈がつく （旭製糸工場火力発電）

明治45年 大正元年（1912）



一部業務が始まった志津川郵便局  
電話交換室（大正8年頃）



志津川電話組合  
番号表（大正14年頃）



町に電話が普及し始めた頃の  
初期型の電話と思われる

## 志津川郵便局が 電話事務開始

大正2年（1913）

## 志津川町報第1号発行

大正2年（1913）



志津川港の賑わい（大正中頃）



松笠屋敷（大正末期）

## 第1回国勢調査を実施

（志津川町1149戸、6488人  
戸倉村490戸、3227人  
入谷村405戸、2605人）  
大正9年（1920）

## 車社会の到来

志津川—米谷間を自動車2台で連絡  
志津川—柳津—登米間にバス開通  
大正13年（1924）



たこ釣りに使用した  
「いしゃり」



たこつば



製糸業で活躍した糸車

### 志津川町での出来事

- 明治45年 大正元年（1912）
  - 6月 志津川に初めて電燈がつく  
（旭製糸工場火力発電）
  - 7月 旭製糸が電気事業の営業開始  
※この頃、八幡川・水尻川のサケふ化事業が、天然から人工ふ化法に移行（水戸辺川は大正9年頃）
- 大正2年（1913）
  - 3月 志津川郵便局 電話事務開始
  - 6月 志津川町報第1号発行
- 大正3年（1914）
  - 10月 戸倉金ヶ沢鉱山、1ヵ月金54匁を採取
- 大正4年（1915）
  - 11月 志津川小学校に町立志津川図書館を開設／本吉中街道竣工（志津川—弘川—馬籠）
  - ※この頃、湾内に発動機を据え付けた漁船出る
- 大正5年（1916）
  - 2月 志津川町青年団結成、正団員345人、戸倉村青年団結成、入谷村青年団結成
- 大正6年（1917）
  - 5月 志津川電燈株式会社創立
  - 12月 松原公園、町の管理となる
- 大正7年（1918）
  - 7月 志津川汽船株式会社設立（石巻—志津川）
- 大正8年（1919）
  - 9月 志津川町で腸チフス流行
- 大正9年（1920）
  - 10月 第1回国勢調査施行  
（志津川町1149戸、6488人  
戸倉村490戸、3227人  
入谷村405戸、2605人）
- 大正10年（1921）
  - ※この年の車両調査によると（旧志津川分、自動車2、自転車136、客馬車5、人力車8、荷馬車62、荷車113）
  - ※この頃、鮫網漁業盛んになる  
（大正末期から昭和7年頃にかけて最盛）
  - ※この頃、細浦でワリの養殖を開始（別に大正7年頃ともい）

### 世の中の出来事

- 第5回五輪大会（1912）
- ツルム大会に日本初出場
- タイタニック号沈没
- 中華民国成立
- 護憲運動暴動
- 第一次世界大戦勃発
- 桜島が大噴火
- 東京駅開業
- 宝塚少女歌劇初公演
- 対華21カ条要求
- シベリア出兵宣言
- 米騒動
- 原内閣成立
- ベルサイユ和平条約
- 第2回国際連盟総会
- 第1回国勢調査が行われる
- 初のメデー
- 原敬首相暗殺



明治37年、現在の南町に建てられ、賑わいを見せた劇場「朝日座」の幕

- 大正11年（1922）
  - 2月 志津川郵便局にて電話交換業務本格開始、加入者67人
- 大正13年（1924）
  - 4月 海円寺山に志津川実科高等女子学校設立開校
  - 9月 志津川—米谷間、自動車2台で連絡
  - 11月 志津川—柳津—登米間にバス開通
- 大正15年 昭和元年（1926）
  - 7月 本吉郡役所廃止